

【国富町立森永小学校】

事業の実施時期：補助を受けた日から令和6年2月2日

活動の概要

- 環境情報センターや出水市ツル博物館より講師を招いて、全校児童と保護者、職員を対象に、講話や体験活動を通して環境について学んだ。
- 第4・5学年の社会科と総合的な学習の時間において、エコクリーンプラザみやざきの施設見学ツアーを通して、宮崎県の4Rについて学んだ。
- 第4学年の総合的な学習の時間において、4RやSDGsについて学び、発表した。

SDGsの視点：「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」

1 学校の概要

本校は、明治45年に開校し、令和4年に、110周年を迎えた学校である。宮崎県中央の豊かな自然に囲まれたところに位置し、児童数93名の小規模校である。

本校の教育目標を「自ら気付き、しっかり考え、進んで行動する児童の育成～元気・笑顔・思いやりあふれる森っ子の育成～」と掲げ、地域に根ざした教育活動を推進しながら、郷土「国富」「森永」に誇りと愛着をもつ児童の育成を目指している。

本校の伝統的な行事の一つに、昭和54年から開始された『二番穂刈り』がある。毎年、地域の田んぼで二番穂を収穫させてもらい、鹿児島県の出水市のツル博物館に寄贈している活動がある。また、専門家を招いて、農業教育や農業体験なども行っており、自然と関わった環境教育に継続的に取り組んでいる。

2 活動のねらい

地域の優れた環境に関心をもち、身近な環境問題に目を向け、よりよい環境づくりのために主体的に行動できる児童の育成を図る。

SDGsの視点：「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」

3 活動内容

(1) 環境教育に関する研修

宮崎県教育庁義務教育課主催の「循環型社会を実現する環境教育推進事業に係る環境教育指導者研修会」に参加し、環境森林部環境森林課の「環境問題に関する国や県の動向と環境教育について」の講話を聞き、その内容を職員に伝達した。今年度、環境教育推進校に選ばれたことや今年度の環境教育の研究計画、25万円の補助費の使い道等、話し合いを行った。国や宮崎県の環境問題の実情や現在の動向について専門的に研修することができ、また、環境教育の見通しがたち有意義な機会となった。

(2) 環境教育(4R)についての学習

7月5日に、4・5学年がエコクリーンプラザみやざきに行き、環境学習を行った。宮崎市と東諸県郡の4Rの現状や今、私たちがすべきことについて、体験活動や工場見学を交えながら体験的に学んだ。工場見学では、実際に埋め立て地がどんどん埋まっていく様子やペットボトルや缶・瓶が分別され、リサイクルされていく様子などを見ることができ、環境問題を身近な問題として感じる事ができた。また、そこで、学習したことをタブレ

ットでまとめ、12月に発表会を行った。社会科の学習や総合的な学習の時間と連携しながら、学習を進めることで、深い学びへとつながっていった。



(3) 伝統行事「二番穂刈り」

本校は、鹿児島県の出水市が行っている自然保護の活動に賛同し、昭和54年に「二番穂刈り」という、一度刈り取った稲の後から伸びてきた二番穂を刈り取り、鹿児島県出水市に飛来するツルの餌として寄贈するという活動を開始した。この活動は、現在まで続いている本校の伝統行事となっている。



6月15日に、鹿児島県出水市ツル博物館より講師の方を招いて、児童と保護者、職員対象に、自然環境についての出前講座を行ってもらった。動物と共存していくことの大切さや難しさ、自然環境と生態系を守っていくことの大事さについて学ぶことができた。その後11月に行われた「二番穂刈り」では、児童一人一人が伝統行事を誇りに、使命感をもって活動に取り組む姿。後日、児童委員会の児童が、刈り取った二番穂を出水市に送った。



(4) 環境情報センターの講師による出前講座

12月の日曜参観「森っ子フェスタ」の日に、1学年から4学年を対象に、宮崎県環境情報センターより講師を招いて、環境に関する講話とリサイクル工作体験を行った。環境に関する講話では、飲料水などとして使える水は、地球上全ての水の中でわずか1%にすぎない貴重な資源であることや、1本の紙パックの飲み物を古紙としてリサイクルすることで、6ロール分のトイレトペーパーに再

生することができるなど、身近な環境についての専門的な話を聞く事ができた。また、牛乳パックを使ったりリサイクルおもちゃ作りでは、ごみとして捨てられる物から、楽しく遊べるおもちゃが作れることを体験し、保護者も児童もとても満足していた。



(5) 地域の方との連携

本校は、地域の方に呼びかけ、アルミ缶を持ってきてもらいリサイクル業者に買い取ってもらう「アルミ缶リサイクル」を行っている。そこで得たお金で「一輪車」や「ボール」などを購入し、児童に還元している。この活動は10年以上続いており、本年度は、チラシを作成して各地区に配布したところ、例年の3倍近く集まった。今後も、学校での取り組みを発信しながら、地域と連携し、環境活動を行っていきたい。



4 成果と課題

(1) 成果について

- ・ 講師を招いたことにより、行事や活動が一層充実した。
- ・ 児童と保護者だけでなく、職員も専門的な知識を得ることができ、継続的に環境教育を進める素地ができた。
- ・ 外部への発信や関わりが増え、地域や保護者、関係機関との絆が深まった。

(2) 課題について

- ・ 専門家の講演や講座がとても有益だったため、今後も活用できるように、教育課程や年間計画に位置付けていく。

学校名： 国富町立森永小学校

住所： 東諸県郡国富町大字森永 1967

電話番号： (0985) 75-2554

E-mail： 1162ea@miyazaki-c.ed.jp